

静岡県立裾野高等学校 第1回学校運営協議会議事録

- 1 開催日時 令和4年4月18日(月) 14時30分～
- 2 開催場所 静岡県立裾野高等学校 会議室
- 3 出席委員数 5人
- 4 校長挨拶
 - (1) コロナ感染状況と通常授業再開について
 - (2) 教育活動を早期に通常に戻し、トークフォークダンスなどの学校行事をできるだけ実施していく。
 - (3) 学校経営計画について
- 5 任命状の交付
- 6 委員自己紹介
高橋委員、小田委員、塩澤委員、稲垣委員、志田委員
- 7 教職員自己紹介
多嶋校長、鈴木副校長、福室教頭、相馬事務長
(新型コロナウイルス感染症対策により管理職のみ出席)
- 8 学校運営協議会設置の規則と要綱について(説明:副校長)
- 9 役員選出
会長 小田 圭介 氏 副会長 志田 忠弘 氏
- 10 議案の審議状況及び議案別議決の結果
 - (1) 第1号議案 令和4年度学校経営計画書(案)(説明:校長)
 - ・目指す学校像、教育の具現化について
挨拶ができる生徒の育成を通じて、コミュニケーション能力の向上を図り、社会人基礎力を育てていきたい。
 - ・各教育目標の数値目標に関するストレッチ目標導入について。
スマホの使い方、新カリキュラム、一人一台端末、ICT研修、授業がわかる生徒、オープンスクール、平日補習参加人数、行事の満足度、部活動満足度、各種資格検定取得率の向上、UD教育など
 - ・志願倍率1.00倍以上について

<質疑応答>

(志田委員) 地域人材の活用について

(小田会長) 挨拶の難しさについて

(校長) 学校の実情として挨拶が十分にできていない現実がある。まずは、挨拶がコミュニケーションの第一歩として徹底していきたい。

(志田委員) 学校がこのような指導をしていると聞くと、こちらも挨拶しやすい。

目指す学校像については委員の承認を得た

- (小田会長) 裾野高校の維持、志願者数1倍を切る現状、裾野高校の魅力化向上
志願倍率1倍以上を回復した大阪、茨城、島根などの高校の取り組み
- (志田委員) 3年連続の定員割れには危機感を持っている。
- (校長) 北駿地区のすべての公立高校が定員割れをしており、本校教職員も危機感
を持っている。昨年度も志願者数を増やすために、中学校訪問など広報活
動を積極的に行った。私立高校の授業料無償化制度導入の影響が大きい。
それらを踏まえて、志願倍率1倍以上を確保するために尽力したい。
- (小田会長) 志願倍率1倍以上を経営計画書に入れなければならない状況だと思う。
- (校長) 経営計画書への表記の入れ方については、教職員の承認を得る必要もある
ので、校長に任せていただきたい。広報活動、授業改善、生徒指導など様々
な教育活動が複合して募集数に反映されるので、学校側に一任していただ
きたい。
- (小田会長) 志願者数1倍確保に関連して、裾野高校の情報発信、広報活動に改善の余
地があるのではないかと。HPも見にくかったりする。
- (副校長) 地域向け学校だよりを各近隣中学校や裾野市内(回覧版)に配布している。
- (小田会長) HPについては、さらなる改善が望まれる。卒業生を活用するなどしてさ
らに洗練されたHPしていただきたい。中学生に良い印象を持ってもらえ
るようなHPを作成改善してもらいたい。
- (校長) 広報戦略室を中心に検討させていただきたい。
- (小田会長) 学校運営協議会の議事録のHP上での公開が義務付けられているが、裾野
高校はどうなっているのか。
- (副校長) 早急に刷新・改善させていただきます。
- (小田会長) 地域防災訓練参加率75%をどのように達成しようと考えているのか。部活
と重なった場合の参加の在り方はどのような指導になっているのか。
- (副校長) 地域防災訓練については、コロナ禍もあって、実施しない地区もあった。
参加率を上げるために担当の声かけ・指導をしっかりとやりたい。
- (小田会長) 学校の基本スタンスを示していただきたい。
- (校長) 学校に指導を任せていただきたい。
- (稲垣委員) 区長さんに、参加したら証明書にサインをもらう仕組みになっているので、
訓練が実施されれば、高校生も参加してくれると思う。
- (小田会長) 一部活一ボランティアを、一人一ボランティアに引き上げたらどうだろう
か。一人の裾野高校生としてのボランティア意識を育んでももらいたい。
- (校長) コロナ禍で、なかなか活動が制限されている状況では、まずは、一部活一
ボランティアを実施できればと考えている。
- (小田会長) 裾野駅から裾野高校への通学地域にゴミ出しに苦勞されている地域住民が
いるので、高校生にボランティアをやらせてもらえると助かる事例もある。
- (高橋委員) 実は、沼津から通っている裾野高生が通学路の途中のゴミ出しができなく
なった住民の代わりにやってくれている事例がある。
- (小田会長) 生徒の通学路や、居住地域を考えるとそのような可能性は無限にひろがる
ので、高校生がボランティアで活躍できるチャンスはいくらでもあると思
う。目指すべき方向性として、部活単位でなく、一人一ボランティアで検
討してもらいたい。
- (校長) わかりました。
- (小田会長) この他、何か委員の皆さん、何かありますか。
- (高橋委員) ボランティアの情報の出し方が微妙で、個人名を出さない方が良い場合も
あるので、そのあたりのことは学校の判断にお任せしたい。
英語検定などの受験者数は実際にはどれくらいいるのか。

進路状況についても、進学希望だけでも家庭の事情により就職せざるを得なかった生徒への支援の在り方などについても明らかにできる範囲で明示されると、さらによいのではないか。

また、入試時期の実施時期ももう少し早期に実施できないか。

- (校長) 入試日程については、制度設計の中で困難な面もある。
- (高橋委員) 一人親家庭では、制服の採寸などが3月に集中すると仕事の休みを取るのも難しい面もあるので、負担軽減になればよいと思う。他の県で入試が早まった例もあるので、検討いただければありがたい。
- (稲垣委員) 先程の資格検定について、補助金の制度があることをもっと周知した方がよいと思う。教員でさえ、知らない先生もいる状態を改善してもらいたい。
- (塩澤委員) ICT教育への取り組みもまだまだ改善の余地があるのでは。
- (志田委員) 外部人材の活用状況はどうか。
- (校長) ビジネス系列、保育健康系列で多くの外部人材に来ていただいている。目標値を上げた。コロナ禍がなければ昨年度同様に考えている。
- (志田委員) また、何かあればいつでもお手伝いさせて欲しいので声をかけて欲しい。
- (小田会長) トークフォークダンスなどの取り組みを是非とも実施してもらいたい。また、志願者数を増やす戦略の一環で地域枠の生徒達の大学進学実績をしっかりと上げることによって、中学生により良いアピールができるのではないか。地域と繋がり、新しい価値を創造していくことが肝要なのではないか。学校として、戦略的に指導の在り方はどのような方針なのか。
- (校長) 2年生の3人については、校内の活動において、ファシリテーター的な活動を積極的にやってくれている。ただ、進路指導などにおいて、地域枠の生徒達に強制はできないと思う。
- (小田会長) 高校3年間でどのような実績を積むのか、積みせることができるような指導ができていくのか、という問題の話だと思う。
- (副校長) 担当教諭が週に1回ミーティングを持ち、進路を見据えた指導を継続している。コロナ禍でなかなか活躍しにくい状況もある。昨年度については、回し読み新聞の取り組みを地域枠の生徒達を中心に実践している。校内での地域の取組は率先してやってもらっている。
- (小田会長) 中学校訪問にその地域枠の生徒達を派遣したらどうだろうか。成長した地域枠の生徒達の姿を中学生に見せるというのも、広報戦略として有効ではないだろうか。
- (校長) 生徒自身に活躍していることを説明してもらうことは、非常にインパクトはあると思う。しかし、中学校訪問は平日に行われるので、実際には難しい面もある。動画を撮影して、それを説明会で流すことも考えている。
- (高橋委員) 生徒の見方と、大人の見方は違うので、生徒目線のアンケートを行ってみたらどうだろうか。
- (小田会長) 保育健康系列ができた経緯も、中学生のアンケートを活用したケースである。志願者数を増やすためにも、小中学生に裾野高校に対する印象などのアンケートをとってみてはどうだろうか。
- (校長) 裾野市教育委員会の許可を得る必要があるなので、その手続きを経て実施するなら、実施したい。

予定された議事は終了

11 今後の日程について

次回は7月頃を予定している。

3回目は10月頃、4回目は2月頃を予定している。